(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2019-51109
(P2019-51109A)
(43)公開日　平成31年4月4日(2019.4.4)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47B 77/08	***(2006.01)***	A47B	77/08	B	3B060
A47B 77/10	***(2006.01)***	A47B	77/10		
A47B 77/14	***(2006.01)***	A47B	77/14		

審査請求 未請求　請求項の数 8　ＯＬ　（全 13 頁）

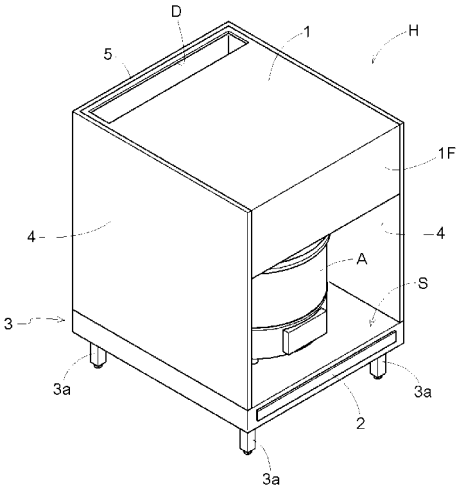
(21)出願番号　特願2017-177944 (P2017-177944)
(22)出願日　平成29年9月15日 (2017.9.15)

(71)出願人　000000284
大阪瓦斯株式会社
大阪府大阪市中央区平野町四丁目１番２号
(74)代理人　110001818
特許業務法人Ｒ＆Ｃ
(72)発明者　北村　知也
大阪府大阪市中央区平野町四丁目１番２号　大阪瓦斯株式会社内
(72)発明者　荒木　守
大阪府大阪市中央区平野町四丁目１番２号　大阪瓦斯株式会社内
(72)発明者　河邑　貴広
大阪府大阪市中央区平野町四丁目１番２号　大阪瓦斯株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】炊飯器用厨房作業台

(57)【要約】
【課題】炊飯に伴って発生する調理排気の流動を適切に行えしかも炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業を良好に行えるようにしながらも、作業者の調理作業に悪影響を与えることを回避できる炊飯器用厨房作業台を提供する。
【解決手段】炊飯器Ａの載置部Ｓの上方に、作業面を形成する天板部１が設けられ、天板部１の後方側箇所に、炊飯器Ａからの調理排気を上方に排出する排気口Ｄが形成され、天板部１が、炊飯器Ａの上部に位置する作業用状態と、炊飯器Ａの上部を開放しかつ炊飯器Ａの背部箇所に縦姿勢で収納される開き状態とに切換え自在に構成されている。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
炊飯器の載置部の上方に、作業面を形成する天板部が設けられた炊飯器用厨房作業台であって、
前記天板部の後方側箇所に、前記炊飯器からの調理排気を上方に排出する排気口が形成され、
前記天板部が、前記炊飯器の上部に位置する作業用状態と、前記炊飯器の上部を開放しかつ前記炊飯器の背部箇所に縦姿勢で収納される開き状態とに切換え自在に構成されている炊飯器用厨房作業台。
【請求項２】
前記載置部の下方に、引出し式の補助作業台が、前記載置部の下方に収納された収納状態と前方に引き出された使用状態とに切換え自在に設けられている請求項１に記載の炊飯器用厨房作業台。
【請求項３】
前記天板部の下面側に、後方側ほど上方に位置する傾斜姿勢の調理排気案内体が設けられている請求項１又は２に記載の炊飯器用厨房作業台。
【請求項４】
前記開き状態において、前記天板部と前記調理排気案内体との間に、前記炊飯器の蓋を挿入する蓋収納空間が形成される請求項３に記載の炊飯器用厨房作業台。
【請求項５】
前記調理排気案内体に、前記炊飯器の蓋の取手部を係止する係止具が設けられ、
前記天板部を、前記作業用状態から前記開き状態に切換えるのに伴って、前記係止具に係止された前記蓋を開くように構成されている請求項３又は４に記載の炊飯器用厨房作業台。
【請求項６】
前記作業用状態における前記天板部の前端部から下方に垂下する姿勢で、前板部が設けられている請求項１～５のいずれか１項に記載の炊飯器用厨房作業台。
【請求項７】
前記前板部が、前記天板部の前記開き状態において、載置台として機能するように構成されている請求項６に記載の炊飯器用厨房作業台。
【請求項８】
前記前板部に、前記天板部の前記開き状態において、前記炊飯器の蓋の下方側部分を係合する蓋保持用溝部が形成されている請求項６又は７に記載の炊飯器用厨房作業台。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、炊飯器の載置部の上方に、作業面を形成する天板部が設けられた炊飯器用厨房作業台に関する。
【背景技術】
【０００２】
かかる炊飯器用厨房作業台は、例えば、業務用の厨房室に、流し台や調理台等の他の厨房用台に並べて設置されて使用されることになり、そして、天板部にて形成される作業面を、調理用の材料等を一時的に載置する載置台として利用する等、天板部にて形成される作業面を備えていることにより、使い勝手が良いものとなっている。
【０００３】
炊飯器用厨房作業台として、炊飯器の載置部が、前方に引き出すことができる引出し式の載置台に構成されたものがある（例えば、特許文献１参照。）
つまり、通常は、炊飯器の載置部を天板部の下方側に収納しておき、炊飯を行うときには、炊飯器の載置部を前方に引出した状態にすることにより、炊飯に伴って発生する調理

排気（蒸気）を、上方に向けて良好に流動させるようにして、厨房室に設置されている換気扇等の排気装置から適切に排気させるようにすることになる。
尚、炊飯器がガス燃焼式の場合には、調理排気には燃焼ガスも含まれる。
【０００４】
また、炊飯器の上部の蓋を開いて、炊き上げた米を保温ジャーに移し替えるとき等においても、炊飯器の載置部を前方に引出した状態にすることより、天板部が邪魔になることを回避しながら、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を行えるようにすることになる。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開平８－２４２９４７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
従来の炊飯器用厨房作業台においては、炊飯を行うときや炊き上げた米を保温ジャーに移し替えるとき等において、炊飯器を載せた載置部が、前方側に引き出されることになる。
そして、そのように炊飯器を載せた載置部が引き出されると、炊飯器を載せた載置部が、作業者が調理作業を行うために移動する通路の内部に突出するものとなって、作業者が移動し難いことになる。
特に、炊飯を行う際には、長時間に亘って、炊飯器を載せた載置部が前方側に引き出された状態に維持されるため、作業者の調理作業に悪影響を与える虞があり、改善が望まれていた。
【０００７】
本発明は、上記実情に鑑みて為されたものであって、その目的は、炊飯に伴って発生する調理排気の流動を適切に行えしかも炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業を良好に行えるようにしながらも、作業者の調理作業に悪影響を与えることを回避できる炊飯器用厨房作業台を提供する点にある。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明の炊飯器用厨房作業台は、炊飯器の載置部の上方に、作業面を形成する天板部が設けられたものであって、その特徴構成は、
前記天板部の後方側箇所に、前記炊飯器からの調理排気を上方に排出する排気口が形成され、
前記天板部が、前記炊飯器の上部に位置する作業用状態と、前記炊飯器の上部を開放しかつ前記炊飯器の背部箇所に縦姿勢で収納される開き状態とに切換え自在に構成されている点にある。
【０００９】
すなわち、天板部の後方側箇所に、炊飯器からの調理排気を上方に排出する排気口が形成されているから、炊飯器を天板部の下方に位置させた状態で炊飯を行うようにしても、炊飯器からの調理排気（蒸気）を、天板部の排気口を通して上方側に向けて流動させて、換気扇等の排気装置から適切に排気させるようにすることができる。
【００１０】
また、天板部が、炊飯器の上部に位置する作業用状態と、炊飯器の上部を開放しかつ炊飯器の背部箇所に縦姿勢で収納される開き状態とに切換え自在に構成されているから、作業用状態においては、天板部にて形成される作業面を、調理用の材料を一時的に載置する載置台として利用する等により、使い勝手の向上を図ることができる。
【００１１】
また、天板部を開き状態に切換えることにより、炊飯器の上部を開放した状態にできる

ため、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を、天板部が邪魔になることを回避した状態で良好に行うことができる。
ちなみに、開き状態においては、天板部を炊飯器の背部箇所に縦姿勢で収納することにより、天板部が邪魔になることを回避した状態で収納することができる。
【００１２】
したがって、炊飯を行うときに、炊飯器を載せた載置部を作業用状態の天板部の下方に相当する位置に位置させ続けるものであるから、炊飯器を載せた載置部が、長時間に亘って、作業者が調理作業を行うために移動する通路の内部に突出することが無くなるため、作業者の調理作業に悪影響を与えることを回避できる。
【００１３】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の特徴構成によれば、炊飯に伴って発生する調理排気の流動を適切に行えしかも炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業を良好に行えるようにしながらも、作業者の調理作業に悪影響を与えることを回避できる。
【００１４】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記載置部の下方に、引出し式の補助作業台が、前記載置部の下方に収納された収納状態と前方に引き出された使用状態とに切換え自在に設けられている点にある。
【００１５】
すなわち、補助作業台を載置部の下方に収納する収納状態にしておけば、補助作業台が、作業者が調理作業を行うために移動する通路の内部に突出することが無くなるため、作業者の調理作業に悪影響を与えることを回避できる。
【００１６】
そして、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業を行う際に、補助作業台を前方に引き出された使用状態に切換えれば、保温ジャーを補助作業台に載置することができる。
つまり、保温ジャーを補助作業台に載置しながら、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業を良好に行うことができる。
【００１７】
要するに、炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業を良好に行うことができる。
【００１８】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記天板部の下面側に、後方側ほど上方に位置する傾斜姿勢の調理排気案内体が設けられている点にある。
【００１９】
すなわち、天板部の下面側に、後方側ほど上方に位置する傾斜姿勢の調理排気案内体が設けられているから、炊飯を行うときに、炊飯器から発生する調理排気（蒸気）を、調理排気案内体によって、天板部の排気口に向けて案内しながら適切に流動させることができるため、炊飯器から発生する調理排気（蒸気）を、天板部の排気口を通して良好に排出させることができる。
【００２０】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、炊飯器から発生する調理排気（蒸気）を天板部の排気口を通して良好に排出させることができる。
【００２１】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記開き状態において、前記天板部と前記調理排気案内体との間に、前記炊飯器の蓋を挿入する蓋収納空間が形成される点にある。
【００２２】
すなわち、天板部の開き状態において、天板部と調理排気案内体との間に形成される蓋収納空間に、炊飯器の蓋を収納することができるから、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を行う際に、炊飯器の蓋を蓋収納空間に収納した状態で支持することができる。

【００２３】
したがって、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を行う際に、炊飯器の蓋を蓋収納空間に収納した状態で支持することができるため、利便性が向上する。
【００２４】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、天板部の開き状態において、炊飯器の蓋を蓋収納空間に収納した状態で支持できるため、利便性の向上を図ることができる。
【００２５】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記調理排気案内体に、前記炊飯器の蓋の取手部を係止する係止具が設けられ、
前記天板部を、前記作業用状態から前記開き状態に切換えるのに伴って、前記係止具にて係止された前記蓋を開くように構成されている点にある。
【００２６】
すなわち、天板部を、作業用状態から開き状態に切換えるのに伴って、炊飯器の蓋を開くことができるから、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を行う際に、炊飯器の蓋を開く操作が不要となるから、作業性を向上することができる。
【００２７】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、作業性を向上することができる。
【００２８】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記作業用状態における前記天板部の前端部から下方に垂下する姿勢で、前板部が設けられている点にある。
【００２９】
すなわち、作業用状態における天板部の前端部から下方に垂下する姿勢で、前板部が設けられているから、天板部の下方側箇所を前板部にて覆うことによって、外観を美麗にすることができる。
【００３０】
つまり、天板部の下方側箇所が開放していると、炊飯器の上部が露呈する等、天板部の下方側箇所が露呈することになるが、前板部にて天板部の下方側箇所を覆うことによって、外観を美麗にすることができるのである。
【００３１】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、外観を美麗にすることができる。
【００３２】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記前板部が、前記天板部の前記開き状態において、載置台として機能するように構成されている点にある。
【００３３】
すなわち、前板部が、天板部の前記開き状態において、載置台として機能するように構成されているから、例えば、載置台として機能する前板部に、炊き上げた米を盛る複数の茶碗を載置しておき、炊き上げた米を炊飯器から茶碗に盛るようにする等、天板部の開き状態において、載置台として機能する前板部を諸々の調理作業に利用することができるため、利便性の向上を図ることができる。
【００３４】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、天板部の前記開き状態において、前板部を載置台として利用することにより、利便性の向上を図ることができる。
【００３５】
本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成は、前記前板部に、前記天板部の前記開き状態において、前記炊飯器の蓋の下方側部分を係合する蓋保持用溝部が形成されている点にある。

【００３６】
すなわち、前板部に、天板部の開き状態において、炊飯器の蓋の下方側部分を係合する蓋保持用溝部が形成されているから、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を行う際に、炊飯器の蓋の下方側部分を蓋保持用溝部に係合させることにより、炊飯器の蓋を縦姿勢で前板部に支持することができる。
【００３７】
したがって、炊き上げた米を保温ジャーに移し替える作業等を行う際に、前板部を利用して、炊飯器の蓋を支持することができるため、利便性が向上する。
【００３８】
要するに、本発明の炊飯器用厨房作業台の更なる特徴構成によれば、天板部の開き状態において、前板部を利用して炊飯器の蓋を支持することにより、利便性の向上を図ることができる。
【図面の簡単な説明】
【００３９】
【図１】炊飯器用厨房作業台の斜視図
【図２】天板部を開いた状態の炊飯器用厨房作業台の斜視図
【図３】炊飯器用厨房作業台の切欠側面図
【図４】天板部を開いた状態の炊飯器用厨房作業台の切欠側面図
【図５】天板部の装着構成を示す縦断正面図
【図６】第２実施形態の炊飯器用厨房作業台の一部を示す切欠側面図
【図７】第２実施形態の係止具の斜視図
【図８】第２実施形態の炊飯器用厨房作業台の一部を示す切欠側面図
【図９】第３実施形態の炊飯器用厨房作業台の斜視図
【図１０】第３実施形態の炊飯器用厨房作業台の斜視図
【発明を実施するための形態】
【００４０】
以下、本発明の実施形態を、図面に基づいて説明する。
〔第１実施形態〕
図１～図４に示すように、炊飯器用厨房作業台Ｈは、炊飯器Ａの載置部Ｓを備え、その載置部Ｓの上方に、作業面を形成する天板部１を備えるように構成され、そして、載置部Ｓの下方に、保温ジャーＢを載置支持するための引出し式の補助作業台２が、載置部Ｓの下方に収納された収納状態と前方に引き出された使用状態とに切換え自在に設けられている。
【００４１】
説明を加えると、脚部３ａを備える台枠３が設けられ、その台枠３の上面部にて、炊飯器Ａの載置部Ｓが構成されている。そして、左右の横側板４及び後側板５が、台枠３から立設されている。
補助作業台２が、収納状態（図１、図３参照）と使用状態（図２、図４参照）とに切換え自在に台枠３に設けられている。
【００４２】
天板部１の後方側箇所に、炊飯器Ａからの調理排気を上方に排出する排気口Ｄが形成され、そして、天板部１の下面側に、後方側ほど上方に位置する傾斜姿勢の調理排気案内体６が設けられている。
調理排気案内体６は、後端縁がヒンジ７を用いて上下揺動自在に天板部１に枢支され、前端縁が紐や鎖等の索状体８にて天板部１に対して吊下げ支持される形態で設けられている。
尚、本実施形態の炊飯器Ａは、ガス燃焼式であり、調理排気には、炊飯に伴って発生する蒸気及び燃焼ガスが含まれることになる。
【００４３】
天板部１が、炊飯器Ａの上部に位置する作業用状態と、炊飯器Ａの上部を開放しかつ炊

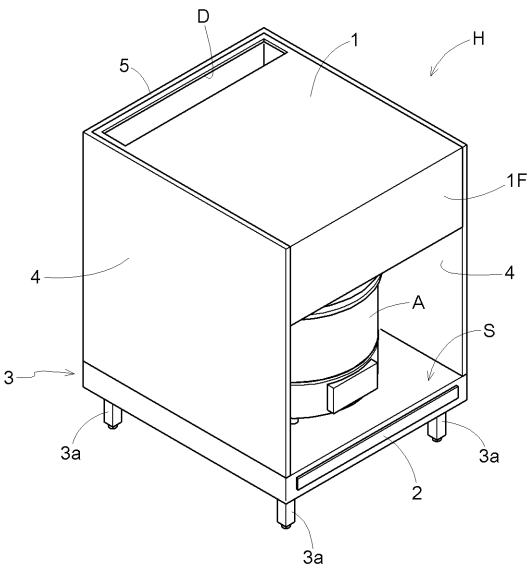
飯器Ａの背部箇所に縦姿勢で収納される開き状態とに切換え自在に構成されている。
　また、図１及び図３に示すように、作業用状態における天板部１の前端部から下方に垂下する姿勢で、前板部１Ｆが設けられている。そして、当該前板部１Ｆが、図２及び図４に示すように、天板部１の開き状態において、載置台として機能するように構成されている。ちなみに、図２においては、前板部１Ｆに、複数の茶碗を載置する場合を例示する。
【００４４】
　さらに、図４に示すように、天板部１の開き状態において、天板部１と調理排気案内体６との間に、炊飯器Ａの蓋Ａａを挿入する蓋収納空間Ｕが形成されるように構成されている。
　したがって、天板部１の開き状態において、炊飯器Ａの蓋Ａａを開いたときには、当該蓋Ａａを蓋収納空間Ｕに収納できるように構成されている。
【００４５】
　天板部１を作業用状態と開き状態とに切換えるための構成について説明すると、図２～図５に示すように、左右の横側板４の上端側箇所に、天板部１の左右の横側縁部を載置支持する左右の受止枠９が、前後方向に伸びる姿勢で、かつ、後端部と後側板５との間に、天板部１を上下方向に挿通するための挿通用隙間Ｗを形成する状態で設けられている。
【００４６】
　また、図３及び図５に示すように、炊飯器Ａの背部箇所に、縦姿勢の天板部１における下方側部分の左右の横側縁部を前方側から受止支持する左右の支持体１０が、左右の横側板４に支持される状態で設けられ、左右の支持体１０と後側板５との間に、縦姿勢の天板部１における下方側部分の左右の横側縁部が係入する係入部Ｙが形成されている。
【００４７】
　したがって、天板部１を作業用状態から開き状態に切換える際には、図４において仮想線で示すように、天板部１の前側部分を上方に持ち上げて、天板部１を後方側ほど下方となる後傾姿勢に切換えながら、挿通用隙間Ｗを通して天板部１を炊飯器Ａの背部側箇所に移動させ、続いて、天板部１を縦姿勢に切換えながら挿通用隙間Ｗを通して下方に移動させて、天板部１における下方側部分の左右の横側縁部を左右の係入部Ｙに係入させることにより、天板部１を作業用状態から開き状態に切換えることができる。
【００４８】
　ちなみに、天板部１を開き状態に切換えたときには、前板部１Ｆの左右の横側縁部が、左右の受止枠９に載置されるようになっており、前板部１Ｆを載置台として良好に使用できるように構成されている。
　また、左右の受止枠９の後端側部分が、下方に向けて湾曲する湾曲状に形成されることによって、天板部１を姿勢変更しながら移動させ易いように構成されている。
【００４９】
　また、天板部１を開き状態から作業用状態に切換える際には、縦姿勢の天板部１を上方に移動させながら、漸次前方側に揺動させようにし、続いて、天板部１を前方側に移動させながら水平姿勢に揺動させて、天板部１を左右の受止枠９に載置することになる。
【００５０】
　（第１実施形態のまとめ）
　本実施形態によれば、炊飯する際に、炊飯器Ａを天板部１の下方に位置させた状態において、炊飯器Ａからの調理排気（蒸気、燃焼ガス）を、天板部１の排気口Ｄを通して上方側に向けて流動させて、換気扇等の排気装置から適切に排気させるようにすることができる。
　そして、炊飯を行うときに、炊飯器Ａから発生する調理排気（蒸気、燃焼ガス）を、調理排気案内体６によって、天板部１の排気口Ｄに向けて案内しながら適切に流動させることができるため、炊飯器Ａから発生する調理排気（蒸気、燃焼ガス）を、天板部１の排気口Ｄを通して良好に排出させることができる。
【００５１】
　また、天板部１の作業用状態においては、天板部１にて形成される作業面を、調理用の

材料等を一時的に載置する載置台として利用する等により、使い勝手の向上を図ることができる。
そして、天板部１の開き状態においては、炊き上げた米を保温ジャーＢに移し替える作業等を、天板部１が邪魔になることを回避した状態で良好に行うことができ、しかも、引出し式の補助作業台２にて、保温ジャーＢを炊飯器Ａに隣接する位置に保持できるから、炊き上げた米を保温ジャーＢに移し替える作業を良好に行うことができる。
【００５２】
また、天板部１の開き状態において、炊き上げた米を保温ジャーＢに移し替える作業を行う際に、天板部１と調理排気案内体６との間に形成される蓋収納空間Ｕに炊飯器Ａの蓋Ａａを収納することにより、炊飯器Ａの蓋Ａａが邪魔になることを回避できる。
【００５３】
さらに、作業用状態における天板部１の前端部から下方に垂下する姿勢の前板部１Ｆにて天板部１の下方側箇所を覆うことによって、外観を美麗にすることができ、しかも、天板部１の開き状態において、前板部１Ｆを載置台として利用できるため、利便性が向上する。
【００５４】
〔第２実施形態〕
次に、本発明の第２実施形態を説明するが、この第２実施形態は、天板部１を作業用状態から開き状態に切換えるに伴って、炊飯器Ａの蓋Ａａを開くように構成したものであって、その他の構成は、第１実施形態と同様であるから、第１実施形態と同様な構成については、第１実施形態と同じ符号を付して詳細な説明を省略する。
【００５５】
図６及び図８に示すように、調理排気案内体６に、炊飯器Ａの蓋Ａａの取手部Ｔを係止する係止具１１が設けられている。
係止具１１は、図７に示すように、調理排気案内体６に対して装着する板状装着部１１Ａと、蓋Ａａの取手部Ｔに係合する二又状の係合部１１Ｃと、板状装着部１１Ａと係合部１１Ｃとを接続する接続部１１Ｂとを備える形状に構成されている。
【００５６】
そして、天板部１の作業用状態において、係止具１１の係合部１１Ｃを蓋Ａａの取手部Ｔに係合させておくことにより、天板部１を作業用状態から開き状態に切換えるのに伴って、蓋Ａａを開くことができるように構成されている。
ちなみに、天板部１を開き状態から作業用状態に切換えると、蓋Ａａが炊飯器Ａの上部に位置することになるので、作業者が、蓋Ａａを炊飯器Ａに密着する閉じ状態に操作することになる。
【００５７】
ちなみに、本実施形態を実施する場合において、つまり、係止具１１を装備する場合において、第１実施形態における天板部１と調理排気案内体６との間に形成される蓋収納空間Ｕを備えさせて、係止具１１と蓋収納空間Ｕを使用状況に応じて使い分けるようにしてもよく、また、係止具を装備する場合においては、第１実施形態における天板部１と調理排気案内体６との間に形成される蓋収納空間Ｕを省略してもよい。
【００５８】
本実施形態においては、天板部１を、作業用状態から開き状態に切換えるのに伴って、炊飯器Ａの蓋Ａａを開くことができるから、炊き上げた米を保温ジャーＢに移し替える作業等を行う際に、炊飯器Ａの蓋Ａａを開く操作が不要となるから、作業性を向上することができる。
【００５９】
〔第３実施形態〕
次に、本発明の第３実施形態を説明するが、この第３実施形態は、炊飯器Ａの蓋Ａａを支持するための構成を示すものであって、その他の構成は、第１実施形態と同様であるから、第１実施形態と同様な構成については、第１実施形態と同じ符号を付して詳細な説明

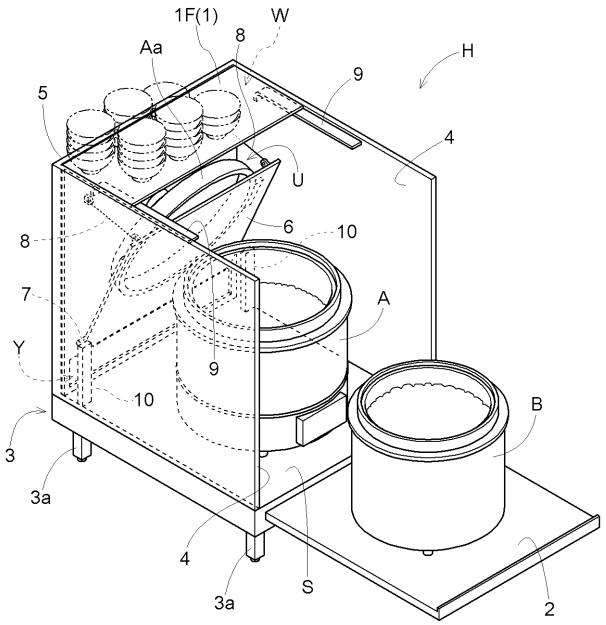
を省略する。
【００６０】
図９及び図１０に示すように、前板部１Ｆに、天板部１の開き状態において、炊飯器Ａの蓋Ａａの下方側部分を係合する蓋保持用溝部１２が形成されている。
したがって、天板部１の開き状態において、炊き上げた米を保温ジャーＢに移し替える作業等を行う際に、炊飯器Ａの蓋Ａａの下方側部分を蓋保持用溝部１２に係合させることにより、炊飯器Ａの蓋Ａａを縦姿勢で前板部１Ｆに支持することができる。
【００６１】
つまり、天板部１の開き状態において、前板部１Ｆを利用して炊飯器Ａの蓋Ａａを支持できるため、利便性の向上を図ることができる。
尚、天板部１の開き状態において、前板部１Ｆを、蓋Ａａを支持するのみならず、茶碗等を載置する載置台として使用しても良いことは勿論である。
【００６２】
ちなみに、本実施形態を実施する場合において、つまり、前板部１Ｆに蓋保持用溝部１２を形成する場合において、第１実施形態における天板部１と調理排気案内体６との間に形成される蓋収納空間Ｕを備えさせて、蓋保持用溝部１２と蓋収納空間Ｕを使用状況に応じて使い分けるようにしてもよく、また、前板部１Ｆに蓋保持用溝部１２を形成する場合においては、第１実施形態における天板部１と調理排気案内体６との間に形成される蓋収納空間Ｕを省略してもよい。
【００６３】
〔別実施形態〕
以下、別実施形態を列記する。
（１）上記実施形態では、左右の受止枠９にて受止支持された天板部１を、挿通用隙間Ｗを通して挿通させながら、作業用状態と開き状態とに切換える場合を例示したが、例えば、天板部１に被案内ローラを備えさせて、その被案内ローラを案内することにより、天板部１を作業用状態と開き状態とに切換えるガイドレールを設けるようにする等、天板部１を作業用状態と開き状態とに切換えるための具体構成は各種変更できる。
【００６４】
（２）上記実施形態では、調理排気案内体６を設けるようにしたが、この調理排気案内体６を省略してもよい。この場合には、前板部１Ｆを設けて、調理排気（蒸気）が外部に流出することを抑制するようにするとよい。
【００６５】
（３）上記実施形態では、前板部１Ｆを設けるようにしたが、この前板部１Ｆを省略してもよい。この場合には、調理排気案内体６を設けて、調理排気（蒸気）が外部に流出することを抑制するようにするとよい。
【００６６】
なお、上記実施形態（別実施形態を含む、以下同じ）で開示される構成は、矛盾が生じない限り、他の実施形態で開示される構成と組み合わせて適用することが可能であり、また、本明細書において開示された実施形態は例示であって、本発明の実施形態はこれに限定されず、本発明の目的を逸脱しない範囲内で適宜改変することが可能である。
【符号の説明】
【００６７】
１　天板部
１Ｆ　前板部
２　補助作業台
６　調理排気案内体
１１　係止具
１２　蓋保持用溝部
Ａ　炊飯器
Ａａ　蓋

D　排気口
S　載置部
T　取手部
U　蓋収納空間

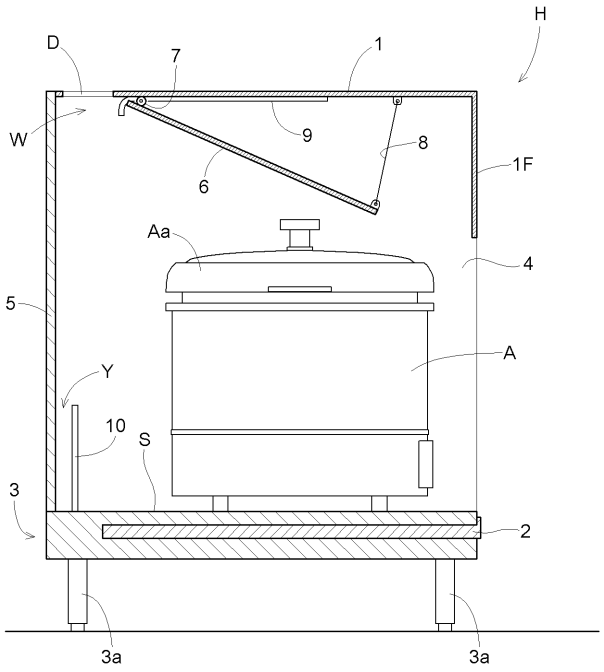
【図１】



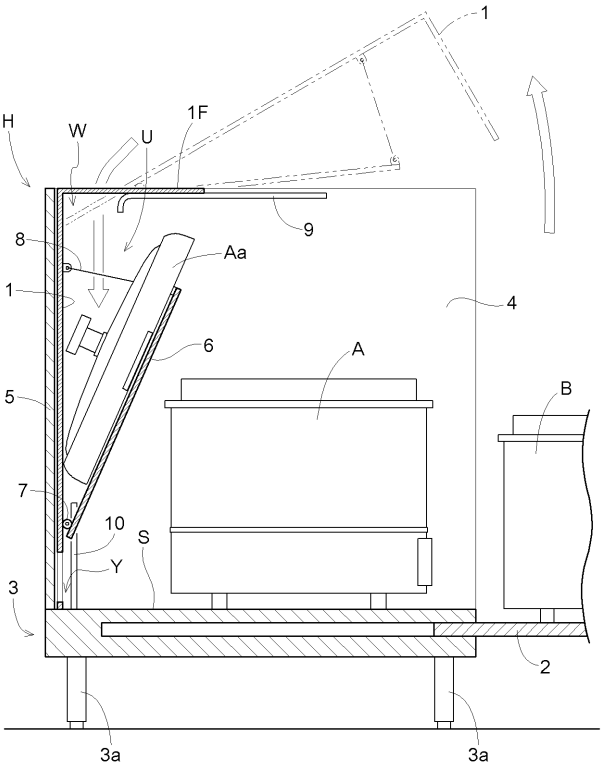
【図２】



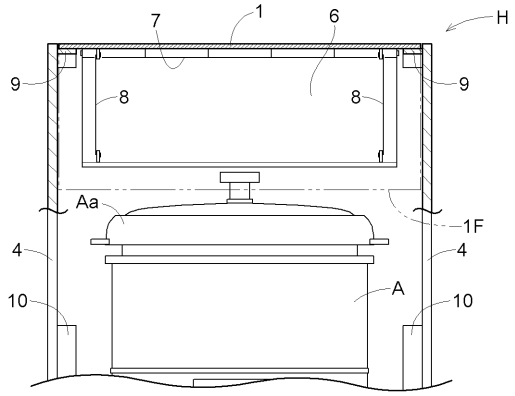
【図３】



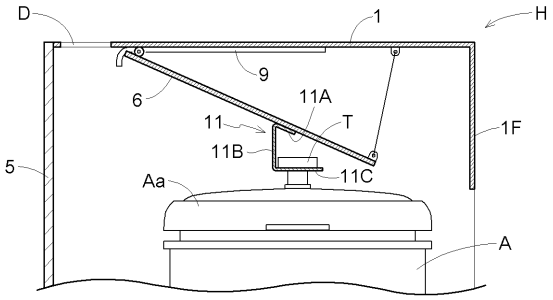
【図４】



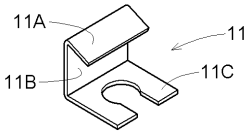
【図５】



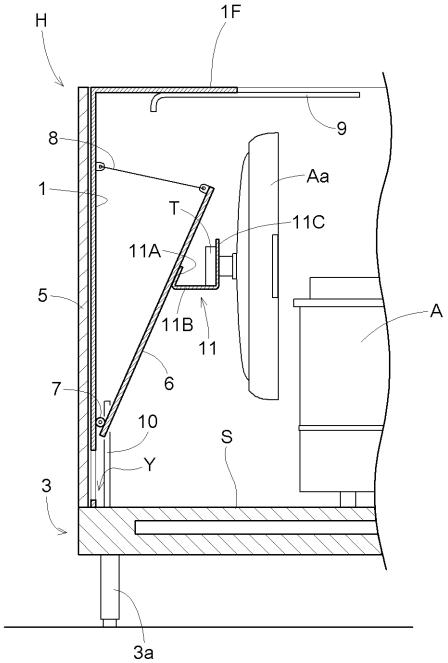
【図６】



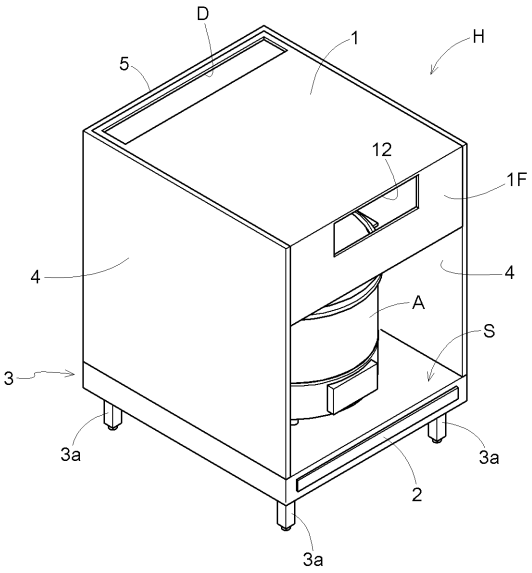
【図７】



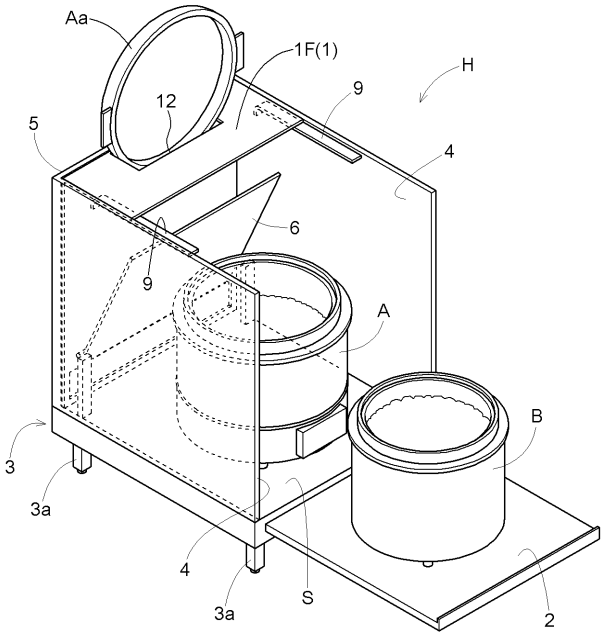
【図８】



【図９】



【図１０】



フロントページの続き

(72)発明者　市川　惠
大阪府大阪市中央区平野町四丁目１番２号　大阪瓦斯株式会社内

Ｆターム(参考) 3B060 GB04　HA03　JA02　JA03